

2024年度 大学入学共通テスト 英語 リスニング(本試験) 分析

試験時間 30 分(音声)

難易度	出題分量	出題傾向
全体 やや易化 第 1・2 問 易 第 3・4 問 やや易～標準 第 5・6 問 標準～やや難	大きな変更なし 設問数・文章の長さなどに 増減は見られず。	大きな変更なし 第 1・2 問が 2 回読み、第 3 問 以降が 1 回読みの形式も踏襲

総評

第 1・2 問は簡単な短文が 2 回読まれるため、英語に自信のない受験生でも正答できた蓋然性が高いが、例年通り、後半に進むにつれて発話の語彙レベルや内容レベルが徐々に難化し、第 5・6 問で大きく差が開くことが予想される。一方で、全体を通して使用されている語彙のレベルが高いわけではなく、アジア人と思われるノンネイティブ発音も含まれており、スピードが速すぎて聞き取れない部分や、フレーズ同士のコンパウンドが聞き手の足を引っ張る部分はほぼ見受けられなかったため、聞き取りについては純粋に英語力でカバーできるものだった。設問へのアプローチとしては第 5・6 問の求めているポイントを読み取るのに時間がかかった受験生が多かったかもしれない。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第 1 問	モノローグ	25 点	A 短いモノローグを聞いて、話者が言わんとする内容を選択肢の文章から選ぶ。選択肢さえ読み違えなければ正解できる。 B 短いモノローグを聞いて、話者が言わんとする内容を選択肢のイラストから選ぶ。「葉が散っている」「犬が寝ている」など一目瞭然のフレーズがありわかりやすい。
第 2 問	ダイアローグ	16 点	猫や人間、部屋などのイラストを描写する。前年度に続き「前・後」「上・下」「ある・ない」などの対になるフレーズ理解があれば正答できる。
第 3 問	ダイアローグ	18 点	2 人の会話を聞いて疑問文に選択肢の文章で答える。一部に数字の表現等があるが、ひっかけではない。問題文が話者の「男性・女性」どちらのことを聞いているのか見間違えないようにする必要がある。ここから 1 回読みになるので集中力も必要。

第4問	A モノローグ(説明文) B 4人の意見	12点	<p>A 一つ目の週末の行動について話すモノローグを聞き、イラストを時系列で並べる設問は「ジェットコースターに乗ろうと思ったけれど、混んでいたのだから先に昼ご飯を食べた。」というひっかけに注意。夏季講座の時間割を見る設問は、クラスのことを内容で具体的に表現しているが、このくらいのパラフレーズは容易に理解できると予想される。</p> <p>B 文化祭の出し物について、4人の意見を聞き条件にあてはまるものを選ぶ。日本語で与えられた条件が明確にあるため、表に○×をつけていくだけで正答できる。</p>
第5問	モノローグ(講義)	15点	<p>ガラスについての説明を聞き、メモを完成させる。メモが何についてのものかを素早く理解する必要がある。ここから「聞き取る」「選択肢を正しく読む」だけでなく、「考える」ことが必要になる。後半ではグラフの読み取りも必要になるが、示される数値も選択肢もそれほど複雑なものではないため、落ち着いて解答すれば正答できる。</p>
第6問	A ダイアローグ(旅行の移動手段) B 4人の会話	14点	<p>A いとこ同士で旅行の移動手段について話し合っている。問34で求められるMichelleの希望と終話時の結論が異なるので注意。</p> <p>B 運動することについて4人が意見を交わす。最初に話し出す男性の名前がしばらくわからないので、注意。Chrisの意見が途中で変わるのを聞き逃さないこと、問37の選択肢(図表)を先に見ておくことで、正答率の差が出た可能性がある。</p>

高1・2生へワンポイントアドバイス

読み上げられる英語の単語レベルはそれほど高くなく、普段からの学校の勉強で十分補える。聞く力についても、アメリカ英語に多い語句のコンパウンドや、速すぎる読み方は多くなく、英検などの検定試験とは異なり、あえてアジア人のようなノンネイティブのゆっくりした発音をする読み手も存在する。そのため、求められるのは高度なリスニングの力というよりも、基本的語彙力と問題処理能力であり、日々の教科書学習と受験期の過去問対策で十分対応可能だろう。

進路企画